

岐阜県立大垣工業高等学校

学校長 林 千尋

学校住所 岐阜県大垣市南若森町301番地1 電話 0584-81-1280

- 1 会議の名称 大垣工業高等学校評議員会 (第2回)
- 2 会議の構成
- | | | |
|----|--------|-----------------------|
| 委員 | 川瀬 勇 | 南若森第2自治会長(御欠席) |
| | 中島 尚子 | 輪之内町女性会議事務局 |
| | 林 貴久 | 太平洋工業(株)人事部長 |
| | 森 政司 | (株)セイノー情報サービス 取締役総務担当 |
| | 度会 さち子 | 岐阜女性史研究会会長 |
- (委員名は五十音順)
- 育友会長 坂口 智之
- 学校側
- | | |
|-------|-----------------|
| 林 千尋 | 校長 |
| 杉山 幸恭 | 事務部長 |
| 西村三紀郎 | 副校長 |
| 西脇 誠 | 教頭(全日制) |
| 河渡 正史 | 教頭(全日制) |
| 堀 秀樹 | 教諭(全日制:教務主任) |
| 小野 哲男 | 教諭(定時制:教務主任) |
| 山下 泰司 | 教諭(全日制:生徒指導主事) |
| 中野 久成 | 教諭(全日制:進路指導主事)※ |
| 川畑 茂 | 教諭(全日制:工業部長) |
- ※会議には進路指導主事代理 岩田正雄教諭が出席
- 3 会議の目的 岐阜県立大垣工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成26年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、協議テーマである「本校の良さを生徒の姿で地域に伝え、地域、産業界及び保護者から期待され信頼される学校づくり」について提言を受ける。
- 4 会議の開催 平成27年1月27日(火) 13:30~15:40 大垣工業高等学校 会議室
委員5人中4人と育友会長、学校側10人が出席
- 5 会議の概要
- (1) 学校長挨拶
 - (2) 日程説明
 - (3) 授業参観 参観クラス:3年電子科、3年建設工学科
 - (4) 学校関係者評価 自己評価に基づき各分掌等からの説明と質疑応答を実施
全日制:教務、生徒指導、進路指導、工業部
定時制:教務

(5) 協議

本校の良さを生徒の姿で地域に伝え、地域、産業界及び保護者から期待され信頼される学校づくり ~ 今年度の反省と来年度へ向けて ~

- 意見 1 本日は、授業を参観させていただいたが、生徒たちが、しっかりと頑張っている姿に感動した。
- 意見 2 先生方が、「分かる授業」や「楽しい授業」を実現するために、努力していることがよく分かった。

- 意見 3 いじめ防止への取組を、学校としてしっかりと実施していることがよく分かった。企業においてもコンプライアンス（法令遵守）をしっかりとやろうということで取り組んでいるが、いじめ防止もコンプライアンス（法令遵守）も、如何に隠れているものを引っ張り出すかが大切であると思うので、引き続き努力をして欲しい。
- 意見 4 不適切な内容をツイッターに投稿しないなど、情報モラルに関する指導については、指導を今後も継続して欲しい。ネットの世界では一度やってしまうと取り返しがつかないことになる。出てしまった情報は消すことができない。高校生に対しても、情報モラルを守ることは、極めて重要であることを、しっかりと教育して欲しい。
- 意見 5 進路指導の面について、インターンシップの生徒受け入れについては、海外の工場での実習を含めて、協力したいと考えている。ついては、生徒に課題意識をしっかりと持たせて臨むようにして頂きたい。
- 意見 6 やはり生徒に基礎学力を付けさせることが大切である。今後も基礎学力向上に関する取組を継続して欲しい。
- 意見 7 特に工業高校では、安全教育（人に怪我をさせない設備や本人への安全教育の徹底、啓蒙活動）が大切である。
- 意見 8 定時制については、アンケート内容についての分析・評価がしっかり行われており、よいと思う。ぜひ来年度以降の実施計画に反映させてほしい。
- 意見 9 大垣工業高校から入社した生徒は素直で明るい。高校時代に行っていたスポーツを入社後も続けて心身を鍛えたり、高校時代のインターンシップで仕事に興味を持ち、入社に繋がった例もある。高校での活動が、その後の活躍に大きく役立っている。
- 意見 10 生徒に、学力に加え、人間力やコミュニケーション力を付けさせることが大切である。
- 意見 11 現状分析や成果の判定において、生徒や保護者へのアンケート結果を重視することに抵抗感がある。同じ人に同じアンケートを続け、経年変化を見るならよいが、学校の場合は、進級・卒業で生徒が入れ替わっていくので、アンケートの対象者も変わる。そのような状況下で、同じアンケートを繰り返したときの5%、10%の違いを本当に評価していいのか気になる。アンケートは使い方を誤ると、1%、2%のわずかな増加で、よく頑張ったと錯覚してしまい、正しい状況を見失うことになるので、注意するべきである。
- 意見 12 学校側で作成した今年度の取組の評価が、A B C Dの4段階になっている。評価の部分について、もっと具体的な数字を出して評価した方が、成果があったかどうか、はっきり分かるのではないかと。
- 意見 13 学校側で作成した今年度の取組の「評価する領域・分野」が、「教育課程・学習指導」「生徒指導」「進路指導」「特別活動」「保健管理・安全管理」「環境管理」「図書」「渉外」「工業」の9個の 카테고리もある。カテゴリーを絞り込んで（少なくとも整理して）、重点項目を定めた方が成果が出やすいのではないかと。
- 意見 14 情報モラルの問題については、一歩間違えば犯罪に繋がったり、事件に巻き込まれたりする可能性がある。引き続き情報モラルに関する教育に取り組んで欲しい。
- 意見 15 高校生が企業で実習を行うインターンシップの実施、地域や企業との連携など、生徒の将来を見据えた進路指導（職業観の育成）に、学校として真剣に取り組んでいることがよく分かった。
- 意見 16 先日、大垣工業高校の研究発表（飛び出せスーパー専門高校生推進事業）を参観した。研究実践した内容、発表方法（プレゼンテーション）のいずれも素晴らしかった。せっかく素晴らしい活動をしているのだから、もっと地域にPRするとよい。また、「ものづくり」のおもしろさ、楽しさを、次世代（中学生、小学生）に伝えて欲しい。

- 意見 17 女子生徒を増やす取組について、昨年度実施の提案をしたが、本年度女子生徒の入学が増えたと聞いた。女性の活躍の場は広がっているので、今後も女子生徒を増やす取組を継続するとよい。
- 意見 18 生徒が高校へ入学してからの3年間で資格試験に合格できたり、3年生での進路決定時に、希望する就職先や進学先へ合格できることが、保護者の満足度を上げることに繋がる。
高校卒業時の進路決定の分野における成果(実績)を上げることが、工業高校の存在価値を高める。
- 意見 19 学校から、気象警報発令時や修学旅行などの行事の際に、授業開始時刻の変更や生徒の様子など、きめ細かく一斉配信メールが来るようになった。保護者にとって、学校と繋がっているという安心感が得られる。部活の成果などのニュースもメールで流してはどうか。
- 意見 20 高校入試において、志望する中学生の数を増やすための取組については、中学生、その保護者、中学の先生などに、工業の中身(専門教科の学習内容)をもっと見せれば、考え方が変わるのではないか。例えば、生徒の課題研究の発表会に中学の先生を招いてはどうか。
- 意見 21 高校入試において、志望する中学生の数を増やすための取組については、海外の学校や海外の町との提携など、普通科高校にはないような取組をするのも一案である。
- 意見 22 高校入試において、志望する中学生の数を増やすための取組については、工業高校を卒業すれば「ものづくりの力」を付けて、必ず正社員として就職できる。このことを、もっとPRしてはどうか。
- 意見 23 高校入試において、志望する中学生の数を増やすための取組については、地域のコミュニティ誌にもっと取り上げられるようにするとよい。地域のコミュニティ誌への掲載は、新聞よりもPR効果があるかもしれない。
- 意見 24 災害時発生時に、大垣工業高校は避難所となるのか。また、避難所となった場合、生徒たちにボランティア活動をさせてはどうか。
- 回答 災害発生時に関する大垣市との協定は既に締結済みであり、本校は避難所となる。災害発生時に生徒の命を守ることが学校としての最優先事項なので、ボランティア的な行為(災害発生時に生徒に何かをさせること)を学校の活動として実施するのは困難な面がある。しかし、生徒たちの意識(災害時のボランティア活動は大切だという意識)は高めていきたいと考えている。

6 会議のまとめ

本日いただいたご意見を真摯に受け止めて、本校の教育活動を進めてまいります。